

愛知英語学校(洋学校の後身) 撮影年不明
中区丸の内3丁目2 現在の名城小学校西隣
【鶴舞中央図書館蔵 名古屋市史資料写真集より】

県立旭丘高等学校協力特別展示

秘蔵資料で知る 明治の英語教育

～名古屋藩立洋学校で学んだ賢人たち～

西洋の学問を学ぶ学校として明治3年に設立された名古屋藩立洋学校（現 愛知県立旭丘高等学校）は、日本の近代文学の扉を開いたと言われる坪内逍遙と二葉亭四迷が共に学んだ学校であり、文学者の他にも愛知県初の総理大臣加藤高明など多くの賢人たちを輩出しています。

そして旭丘高等学校の書庫には現在も洋学校時代からの貴重な資料が多数保管されています。今回はその中から賢人たちが学んだ面影が忍ばれる当時の教科書や英和辞書などを特別にお借りし、普段は学外の方が目にすることができない貴重書を広く市民に公開します。

郷土の賢人たちの洋学校での足跡を知ると共に、彼らが洋学校で学んだ当時の息吹を感じることができる特別展示です。

- 展示期間 平成27年9月19日(土)～10月15日(木) 図書館開館中
- 展示場所 名古屋市鶴舞中央図書館 2階展示スペース

秘蔵資料で知る 明治の英語教育

～名古屋藩立洋学校で学んだ賢人たち～

■名古屋藩立洋学校とは

明治維新後、文明開化の風潮を反映し、西洋の学問や語学を教える学校が各地に設立されました。名古屋藩でも、明治3(1870)年6月、七間町の旧寺社奉行所跡に「洋学校」を設置しました。その後2度の改称を経て「成美学校」となりましたが、文部省が学制の実施と共に全国に官立外国語学校を設置した際、名古屋にも明治7年に文部省直轄の「愛知外国語学校」(同年に「愛知英語学校」と改称)が設立され、成美学校は愛知外国語学校へ引き継がれました。明治10年に愛知英語学校が廃止されて「愛知県中学校」が開設された後も、「愛知県第一中学校」など改称を重ね、昭和23年に名古屋市立第三高等女学校と統合して愛知県立旭丘高等学校となり現在に至ります。^{※1}

洋学校では御雇い教師としてフランス人ムーリエ、イギリス人インギリスを招き、外国人教師によって仏学と英学を教授しました。明治4年7月に名古屋県が発布した『外国人交際ニ付心得ノ事』、『洋学校ニ外国人教師ヲ雇フ』という2つの布告にムーリエとインギリスを招いたことが記されています。名古屋新聞^{※2} 第1号の2ページにも中学教師としてムーリエとインギリスの名が掲載されており、同じく第1号5ページに「御雇教師ムーリエ喜^{コト}テ和語ヲ修ム、頃日當縣貫属皇学家植松茂岳ニ執贖シ古今和歌集ノ講説ヲ受クト」とムーリエは日本語にも通じていたことが分かります。

外国人教師への給与についてはムーリエが年給4000円と食糧200円、インギリスは月給225円と食糧200円が支給されたと文部省への報告書にあり、当時の小学校教師の月給10円程度と比較すると、非常に厚遇されていました。『名古屋市史資料写真集』所収の愛知英語学校の写真(当展示解説の表紙に掲載)の中の、手摺のある2階建ての家は外国人教師の住宅とされています。

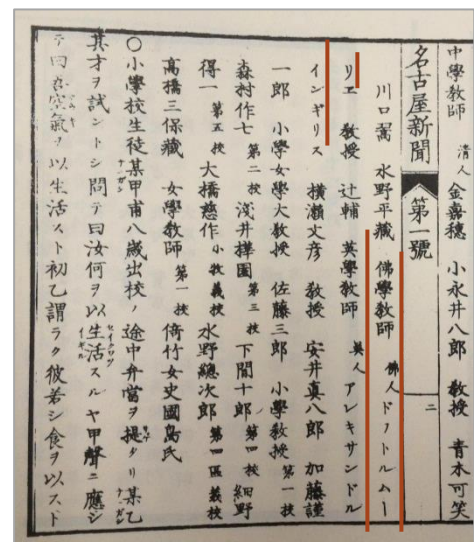
外国人教師による教授は愛知一中時代の昭和12年(1937)まで長く続きました。

幕末開港後は、外国語、特に英語が勉学の重要な位置を占めました。教養として外国語を学ぶのではなく、最新の専門技術を学ぶための基礎として外国語の習得が必要とされ、志のある者の多くが洋学校へ入学しました。

上記の布告『洋学校ニ外国人教師ヲ雇フ』には「士族卒ハ素ヨリ農商ノ子弟ニ至ルマテ入学セシメ勉勵刻苦学成立ヲ期セシムヘキ也」とあり、洋学校は藩士だけでなく農商の子弟にも入学への道を開いていたことが分かります。

※1 学校名の変遷については当展示解説の最終ページに記載しました。

※2 名古屋新聞…愛知県で発行された最初の新聞。明治4年11月、名古屋県庁の援助により文明社から創刊されました。



名古屋新聞第1号(明治4年11月)
『日本初期新聞全集 33』より

■愛知外国語学校、愛知英語学校のカリキュラム

『愛知県教育史』には愛知外国語学校、愛知英語学校の規則が掲載されており、当時の組織内容、校則、カリキュラムなどを知ることができます。

明治7年9月に開校した愛知外国語学校は学校の目的を「此学校ハ専ハラ語学上達スルヲ以テ目的トナシ二種ノ学校ト見做スヘシ甲は通弁ノミヲ志ス者ヲ教授シ乙ハ語学ヲ卒ヘ専門諸科ニ入ラント欲スルモノヲ教授ス」と定めています。入学資格は上等小学卒業者で年齢は13歳以上18歳以下としています。修業年数は6年とし、1年を2学期に分けていました。教科を上等語学と下等語学の二つに区分し、一日5時間、毎週30時間の課業としていました。授業料は毎月50銭ですが、経済的理由で納められない者や兄弟が同時に入学した者には一定の減額がありました。教科書は「自弁勿論ナレトモ貧ニシテ求ムル能ハサルモノヘハ官籍貸渡候事」とされています。

同年12月に「愛知英語学校」と改称された際、「此学校ハ大学校ニ入ラント欲スルモノニ先ツ英語ヲ以テ普通ノ学科ヲ教授スルモノニシテ修業年限ヲ4ケ年トシ」と定めて、学校の目的を大学の専門学科に進む者に対して英語によって普通科の学科を教授することへと変更し、修業年数は4年となりました。

学校職員一覧には外国人教員5名の名前が「ヤーカイル 米国 算術及地理」のように記されており、英語だけでなく算術や地理、歴史も外国人教師が教授していたことが分かります。

また、学科課程表には各学年、学期別の教科書と、各学科別の毎週の時間数が示され、当時使用されていた教科書が分かります。

■愛知英語学校の学科課程表

学年	学期	科目		教科書	週時数
		学	科		
第一	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第三読本	五
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第二読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	
第二	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第一読本	三
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第二読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	
第三	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第三読本	三
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第四読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	
第四	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第五読本	三
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第六読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	
第一	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第七読本	三
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第八読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	
第二	第一期	語学	口授	ウキルソン氏第九二至ル	三
		読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三
	語学	口授	ウキルソン氏第十読本	三	
	読方及書取		ウキルソン氏第九二至ル	三	

|| 今回展示資料

『愛知県教育史第3巻』より

『愛知一中旧蔵書解題目録』

洋学校時代から収集・保存されてきた約6千冊の和漢洋の資料は、学校の移転・統合や戦争などの蔵書散逸の危機を逃れ、一部は伊勢湾台風の被害を受けつつも、現在も愛知県立旭丘高等学校の書庫に大切に保管されています。

その中には筆写本『宇治大納言物語』や、英和辞書が作られる前に使われていた英語と中国語の辞書『英華字典』など、極めて珍しい資料が含まれています。そのうちのごく一部は『国書総目録』(岩波書店、1963~72年)に掲載されていますが、殆どは未発表のまま書庫に秘蔵されてきました。

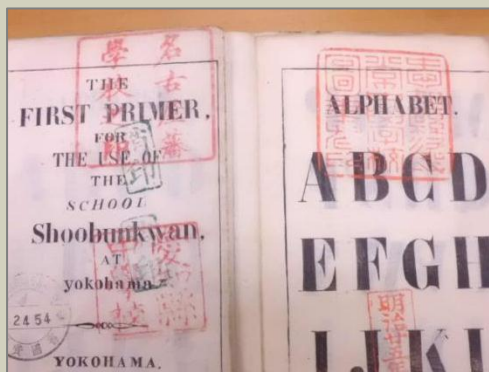
これらの貴重資料が日の目をみるようにしたいという思いから旭丘高等学校の教諭、司書、職員が校務の合間に整理を進めていました。昭和56年(1981)の図書館新築を機に、これまでの先人の仕事を発展させた和漢書及び洋書の解題目録の作成が当時の小木曾照行校長から発案され、昭和59年に着手されました。そして、この目録の原稿をもとに、平成9年(1997)10月、愛知一中創立百二十周年の記念事業として『愛知一中旧蔵書解題目録』が印刷刊行されました。



蔵書印

蔵書印は、所蔵者がその所有を表す目的で書籍に押捺したものです。捺印された蔵書印により、その書籍の来歴を知ることができますが、旭丘高等学校に伝わる資料の場合は、捺印された蔵書印を見ることで、その本が教科書として使用された時期を推察する手がかりになります。

『英学入門』の蔵書印



- ・名古屋藩学校之印
- ・愛知県中学校
- ・愛知県尋常中学校

『PARLOR GYMNASIUM AND CHEST EXPANDER』の蔵書印



- ・愛知外国語学校蔵書印
- ・愛知英語学校図書室印

★ミニピック 「郷土教学展覧会」★

昭和14年10月1日から7日間、名古屋市制施行50周年記念名古屋展覧会第一会場として、市立名古屋図書館(現 鶴舞中央図書館)で郷土教学展覧会を開催し、藩政時代から明治初期の学校その他教育施設に関する資料約900点を展示しました。

その図録には名古屋藩学校印、名古屋藩学校旧蔵書、名古屋藩学校教師イングリシ書状が掲載されており、これらを借用して展示したことがわかります。



名古屋藩学校印(銅印)

旭丘高等学校から特別展示のために借用した 明治時代の教科書、英和辞典

旭丘高等学校書庫に保管されている洋書は、『愛知一中旧蔵書解題目録』によれば654種、943冊あります。生徒が英語を学ぶために使用した語学の本だけでなく、歴史や地理、数学、化学、体育など幅広い分野の図書が集められています。



No.※3	書名	解題	出版年	蔵書印※4
99	A SHORT HISTORY OF THE ENGLISH PEOPLE	人民为中心の英国小史	1875	英語、英室、尋常
162	HISTORY OF THE ATLANTIC TELEGRAPH	大西洋海底ケーブル敷設を記す	1866	大学、英室
222	THE FOURTH READER OF THE SCHOOL AND FAMILY SERIES	ウィルソン読本	1860	英語、英室、尋常
228	SANDERS' RHETORICAL OF UNION SIXTH READER	ユニオン第6読本	1867	第一大学区、英語、英室、尋常
282	KEY TO THE PROGRESSIVE HIGHER ARITHMETIC	ロビンソン高等算術の解答書	不明	外国語、英室、尋常
284	ROBINSON'S PROGRESSIVE PRACTICAL ARITHMETIC	ロビンソン算術書中級	1877	県中、尋常
286	A COMPLETE SYSTEM OF PRACTICAL ARITHMETIC	初等算数から種々の計測、三角、代数の初歩を扱うテキスト	1872	成美、尋常
388	FIRST PRINCIPLES OF CHEMISTRY	大学用化学テキスト	1870	南校、開成、英語、英室、尋常
511	PARLOR GYMNASIUM AND CHEST EXPANDER	著者考案のチェストエキスパンダーによる室内体操の手引書	1871	外国語、英室、尋常
520	THE WORKS OF WILLIAM SHAKESPEARE (9th ed.)	シェイクスピア作品集	1866	県中、尋常
524	WILLSON'S PRIMARY SPELLER	ウィルソン綴字書 初等	1863	英語、尋常
525	WILLSON'S LARGER SPELLER	ウィルソン綴字書 上等	1864	県中、尋常
533	ROUTLEDGE'S PRONOUNCING DICTIONARY OF THE ENGLISH LANGUAGE	英語発音辞典	1873	外国語、英室、県中、尋常
533	ROUTLEDGE'S PRONOUNCING DICTIONARY OF THE ENGLISH LANGUAGE	同書 2冊め	1873	外国語、英室、県中、尋常
562	FIRST LESSONS IN COMPOSITION	クワッケンボス作文書	1874	英語、県中、尋常
565	THE FIRST READER	ウィルソン第1読本	1860	英語、県中、尋常
566	THE SECOND READER	ウィルソン第2読本	1860	英語、英室、尋常
578	CHAMBERS'S NARRATIVE SERIES OF STANDARD READING BOOKS IV	チャンバー第4読本	1870	ハルトリー大坂、藩校、県中、尋常
583	PROGRESSIVE LESSONS IN READING	英語読本	1872	成美、県中、尋常
和書	英学入門	英語のごく初歩の入門書。教科書。	不明	藩校、県中、尋常
和書	英和对訳袖珍辞典 改訂増補	日本最初の英和辞典。 袖珍 <small>しゅうちん</small> はポケット版の意。	不明	蔵書印なし

※3 『愛知一中旧蔵書解題目録』に附された通番

※4 藩校：洋学校、外国語：愛知外国語学校、英語：愛知英語学校、英室：愛知英語学校図書室、県中：愛知県中学校を指す。大学、南校、開成、第一大学区とあるのは譲渡または払い下げられたものと考えられる。ハルトリーは輸入商会の名。

■洋学校で学んだ賢人たち

この洋学校は愛知県を中心とした中部地方その他から人材が集まり、明治時代を牽引する多数の賢人が学びました。

坪内逍遙 1859年～1935年

幼名勇蔵、後に雄蔵。尾張藩下級武士の子として美濃太田に生まれました。日本初の近代的文学論『小説神髓』とその実践となる小説『当世書生気質』を著しました。シェークスピア全集の訳業を完成させたことでも有名です。

洋学校に明治5年(1872)に14歳で入学、明治9年(1876)18歳まで在籍し、その後県の選抜生として開成学校に入学しました。

洋学校時代の思い出として、「教科書中にシェークスピアからの抜文が随分あったが、彼れ(註:教師マックレラン)が『ハムレット』の独白を、立って、身振りまじりでポケットのナイフを逆手に持って、「ツービー・オア・ナット・ツービー」などと表情までして朗読してくれたのは、不思議に今も尚ほ耳目に残ってゐる。私が外国劇のセリフ廻しらしいものを聴いたのは、実際それが初耳であった」と語っています。



二葉亭四迷 1864年～1909年

本名長谷川辰之助。江戸尾張藩上屋敷で生まれ、明治元年(1868)に郷里名古屋へ移りました。近代小説の先駆とされる言文一致体の『浮雲』を発表し、ツルゲーネフの『あひびき』『めぐりあひ』を翻訳しました。

洋学校には明治4年(1871)に7歳で入学しました。18歳の時の履歴書(草稿1)には「四年八月二日ヨリ五年九月廿九日マテ名古屋學校に入り教師林正十郎ニ就キ變則佛學單語篇文典ヲ學フ并同校教師佛人ムウリエーニ就キ正則佛學綴字書并習字ヲ學フ」とあり、彼がムーリエにフランス語を学んだことが分かります。



加藤高明 1860年～1926年

幼名服部總吉。父は名古屋藩士。東京大学法学部を首席で卒業し、三菱に入社、岩崎弥太郎の長女と結婚しました。後に政界に転じ、大正13年(1924)首相に就任。翌年普通選挙法、治安維持法、日ソ基本条約を成立させました。

洋学校には明治5年(1872)、13歳で入学しました。翌年上京し、明治7年(1874)に東京外国語学校に入学後、飛び級により開成学校に16歳で入学しました。

昭和3年(1928)に鶴舞公園に銅像が建てられましたが、戦争による供出で、今は台座だけとなっています。



三宅雪嶺 1860年～1945年

本名雄二郎。父は金沢藩の儒医。明治21年(1888)政教社を設立して雑誌『日本人』を創刊、国粹主義を主張しました。哲学者としての主な著作に、『哲学涓滴』、『宇宙』があります。昭和18年(1943)文化勲章受章。

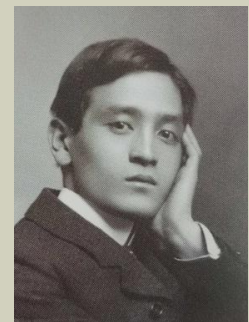
明治8年(1875)に愛知英語学校に入学。翌年に東京開成学校予科に入学、明治16年(1883)東京大学哲学科卒。彼が記した『大学今昔譚』(1946)には愛知英語学校時代の出来事が詳しく記されています。その中には三宅の父が石川県参事に宛てに出した愛知英語学校への入学願も掲載されています。



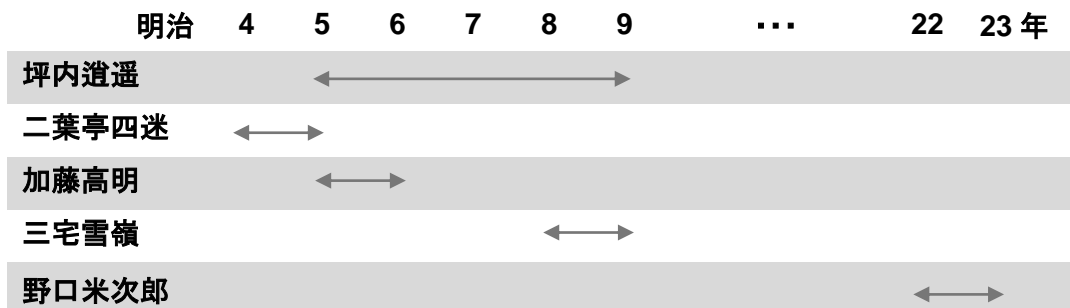
野口米次郎(ヨネ・ノグチ) 1875年～1947年

詩人。愛知県津島町(現津島市)に生まれました。明治23年(1890)に上京して英語を学び、慶応義塾に入学するものの中退して渡米。明治29年(1896)に雑誌「ラーク」に英詩が掲載されて注目を浴び、第一詩集『Seen and Unseen』を出版しました。明治35年(1902)にイギリスで出した最初の詩集『From the Eastern sea』が評判となり、英詩壇でもその存在を認められています。大正10年(1921)に最初の日本語詩集『二重国籍者の詩』を出版、その後も多くの詩集を出し日本でも活躍しました。世界的な彫刻家イサム・ノグチは彼の息子です。

明治22年(1889)に愛知県尋常中学校に入学、翌年に中退して上京しています。



■賢人たちの在学期間



この他にも、哲学者・宗教家の清沢満之、母校愛知県第一中学校長となり「マラソン校長」として有名な日比野寛、推理小説・翻訳・評論を著して推理小説の普及に貢献した小酒井不木、国立国会図書館初代館長の金森徳次郎ら多くの賢人が在学しました。

■ 展示資料・参考資料

- 『愛知一中旧蔵書解題目録』 愛知一中旧蔵書解題目録編集委員会／編集 鯨光会 1997.10
『鯨光百年史』 愛知一中会／編 愛知一中(旭丘高校)創立百年祭実行委員会 1977
『愛知県教育史 第3巻』 愛知県教育委員会／編 愛知県教育委員会 1973
『愛知県教育史 資料編近代1』 愛知県教育委員会／編集 愛知県教育委員会 1989
『新修名古屋市史 資料編近代1』 新修名古屋市史資料編編集委員会／編集 2006.3
『名古屋教育史 1 近代教育の成立と展開』 名古屋教育史編集委員会／編集 名古屋市教育委員会 2013.3
『名古屋市史資料写真集』 名古屋市鶴舞中央図書館／[編] 名古屋市鶴舞中央図書館 1971
『郷土教学展覧会図録』 市立名古屋図書館／編纂 名古屋市立名古屋図書館 1940.3
『日本初期新聞全集 33』 ペリかん社 1991
『愛知一中旧蔵書解題目録』にみられる英学教科書』 加藤 詔士／著 1998 英学史研究 31号JP13-26
『名古屋藩学校と愛知英語学校』 堀川柳人／編 三浦印刷(印刷) 1935
『歴史写真集名古屋再発見』 服部 鈺太郎／著 中日新聞本社 1984
『資料日本英学史 1 下 文明開化と英学』 川澄哲夫／編 大修館書店 1998.6
『日本英学風土記』 池田哲郎／著 篠崎書林 1979
『日米文学交流史の研究』 木村毅／著 恒文社 1982
『西洋世界と日本の近代化 教育文化交流史研究』 加藤詔士、吉川卓治／編著 大学教育出版 2010.5
『坪内逍遙(新潮日本文学アルバム)』 新潮社 1996.4
『逍遙選集 第12巻』 坪内逍遙／著 第一書房 1977
『情熱の人坪内逍遙』展示図録』 美濃加茂市民ミュージアム／編集 美濃加茂市民ミュージアム 2005.2
『ハムレット』[シェークスピア／著] 坪内逍遙／訳 早稲田大学出版部 1929.11
『二葉亭四迷 くたばってしまえ(ミネルヴァ日本評伝選)』 ヨコタ村上孝之／著 ミネルヴァ書房 2014.5
『二葉亭四迷全集 第7巻』 二葉亭四迷／著 筑摩書房 1991
『加藤高明 上巻』 伊藤正徳／[編] 加藤伯伝記編集委員会 1929
『加藤高明 主義主張を枉ぐるな(ミネルヴァ日本評伝選)』 櫻井良樹／著 ミネルヴァ書房 2013.12
『大学今昔譚』 三宅雪嶺／著 我観社 1946
『「二重国籍」詩人野口米次郎』 堀まどか／著 名古屋大学出版会 2012.2
『ヨネ・ノグチ 夢を追いかけた国際詩人』 星野文子／著 彩流社 2012.10
『From The Eastern Sea』 Yone. Noguchi／著 Fuzanbo 1903.10

愛知県立旭丘高等学校の沿革 (『学校名変遷総覧 大学・高校編』 日外アソシエーツ 2006.11 他より)

明治3年(1870)6月	名古屋藩立洋学校を開校
明治4年(1871)7月	名古屋県立洋学校と改称
明治5年(1872)4月	愛知県立洋学校と改称
明治6年(1873)12月	愛知県立成美学校と改称
明治7年(1874)9月	愛知外国語学校を開校
明治7年(1874)12月	愛知英語学校と改称
明治10年(1877)2月	愛知県中学校を開校
明治19年(1886)9月	愛知県尋常中学校と改称
明治29年(1896)4月	愛知県第一尋常中学校と改称
明治32年(1899)4月	愛知県第一中学校と改称
明治34年(1901)8月	愛知県立第一中学校と改称
大正11年(1922)5月	愛知県第一中学校と改称
昭和23年(1948)4月	愛知県立第一高等学校と改称
昭和23年(1948)10月	愛知県立第一高等学校と名古屋市立第三高等女学校を統合し、 愛知県立旭丘高等学校を発足